



塗装仕様書

20212

P1/3-A17

仕 S-ツヤ有 MS-003

オキツモ耐熱塗料 ワンタッチスプレー ツヤ有 メタリックシルバー

| | | | | | |
|-----|-----------|----|--------|----|-------|
| 耐熱性 | 200℃ | 乾燥 | 常温又は焼付 | 構成 | 1コート |
| 色調 | メタリックシルバー | 艶 | 艶有 | 容姿 | エアゾール |

| | |
|------|----------------------------|
| 特長 | 手軽に塗装ができます。 |
| 適用素材 | アルミ、鉄、ステンレス |
| 用途 | 暖房器具、焼却炉外面、煙突外面、加熱部品などの補修。 |
| 塗装仕様 | |

| | |
|------------|---|
| 前処理 | 塗装面の汚れ、油分、錆などをよく取り除く(※1) |
| 塗装準備 1 | 塗料が付いては困る部分はあらかじめ新聞紙・マスキングテープでおおう |
| 塗装準備 2 | スプレー缶の中に入っているビー玉の音が聞こえるまで容器をよく振る |
| 塗装準備 3 | 塗料はだ円形に噴射するため、噴射口を回転させ、塗りやすい方向に変える。まず目立たない部分で試し塗りをして色、噴射の状態(※2)、乾燥性、下地への影響、密着性などよく調べて異常が無いことを確かめる。 (表示の色は実際の色と多少異なることがあります。) |
| 塗装 | ノズルの位置を塗装面から30~40cm 位離して吹き付ける。このとき、一度に厚塗りをしないで、塗装面と平行に移動しながら、ややうすめに塗装する。(塗装の合間にも時々スプレー缶を振ってください) |
| 標準膜厚 (Dry) | 10 ~ 20 μm |
| 塗装回数 | 1回 |
| 標準塗り面積 | 1.5 ~ 2.0m ² (※3) |
| 乾燥 | 常温24時間以上(※3、※4) 又は 180℃×20~30分 |
| 用具のお手入れ方法 | スプレー缶を逆さにして、液が出なくなるまで空吹きし、ノズル穴を布などで拭き、フタをする(※5) |

- (※1) 塗装面の不良部分をサンドペーパー(#600~#1000)にて研磨し、塗装面をエアブローにて清浄にしてから塗装してください。(塗装面が熱いときには塗装しないでください。)
- (※2) 気温が下がると塗料の出方が悪くなります。その時はぬるま湯(30℃程度)に3~5分つけてから使用してください。
- (※3) 塗布面積、乾燥時間は色、素材、形状、塗り方、気象条件の違いにより、多少異なります。
- (※4) 常温乾燥後の塗膜は指触乾燥程度で完全硬化には至っていません。稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。(180℃程度の熱が20~30分以上かかからないと完全硬化には至りません)
- (※5) 塗料がノズル中や、スプレー缶内のチューブ中で固まり、次回使用までに詰まるのを防ぐためです。又、詰まってしまったノズルはシンナーで洗浄を行ってください。

**塗装時における注意事項**

- [塗装環境] ・天気の良い、湿度の低い日に塗装してください。
(塗装に適さない条件)
①降雨・降雪が予想されるとき ②外気温が5℃以下のとき、露点との差が3℃以内
③相対湿度が85%以上 ④強風のとき
・通気性の悪い環境下での使用は避けてください。
- [前処理] ・塗装面に錆、汚れが付着している場合は、溶剤脱脂やブラスト、サンダー、グラインダー、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去してください。
・前処理により生じた塵埃、鉄粉などを被塗面からエアブロー、ハケ、ウエスなどで除去してください。
・結露面には、塗装しないでください。
・前処理の良否は塗膜性能(密着性・耐食性・耐熱性)に大きく影響します。
- [塗 装] ・加熱されている状態の素材には塗装しないでください。
・膜厚は指定された範囲内になるように管理してください。過剰膜厚で塗装された場合、加熱後、塗膜のふくれが生じる場合があります。
- [乾 燥] ・塗装後すぐに加熱すると、塗膜がふくれたりすることがありますので、常温乾燥の場合、24時間以上放置後、稼動するようにして下さい。(焼付乾燥180℃×20～30分の場合は、塗装後5分～10分放置後、180℃×20～30分で乾燥させてください。)
また、乾燥不良の場合、硬度不足などの性能不良が起こることがあります。
・あらかじめ乾燥させた塗装物でも稼動時や焼付乾燥時は残留シンナーなどの有害成分が発生する恐れがありますので、塗装物の加熱時には換気を行ってください。
- [そ の 他] ・塗膜が硬化するまでは熱により軟化を起こす場合がありますので、塗膜に熱いものを乗せたりするときは注意してください。
- [廃 棄] ・廃棄する際は押しボタンを押して、中のガスを十分に抜き、他のゴミとはっきり区別して捨ててください。
・やむを得ず中身の塗料を捨てる時は、火気のない屋外で新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般のゴミとして処分してください。



- [取扱い注意]
- ・表示以外の用途や耐熱温度以上の場所には使用しないでください。
 - ・可燃性の有機溶剤を使用しているため、火気のある所や、燃焼中のストーブなどには吹き付けしないでください。
 - ・食器など食品に直接触れるものには塗装しないでください。
 - ・缶を逆さにした状態では使用できません。
 - ・有機溶剤が含まれていますので塗装中、乾燥中とも換気を良くし、蒸気を吸い込まないようにしてください。
 - ・取り扱い中は必要に応じてマスクや手袋を着用してできるだけ皮膚に触れないようにしてください。
 - ・取り扱い後は手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- [保管上の注意]
- ・子供の手の届かない所に保管してください。
 - ・中身が漏れたり破裂する危険がありますので、湿った場所など錆びやすい所や、直射日光の当たる所、自動車内、暖房器具の周辺等の温度が高くなる所には置かないで冷暗所に正立保管してください。
 - ・開封後はなるべく早期にご使用ください。
- [救急処置]
- ・皮膚に付着した場合は多量の石鹼水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診察を受けてください。
 - ・目に入った場合は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
 - ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
 - ・火災の時には炭酸ガス、泡、または粉末消火器を用いてください。
- ・詳細な内容については、製品ごとの安全データシート(SDS)をご参照ください。
- ・本塗料は一般工業用途向けに供給しており医療用途への使用に適した設計や製造はしていません。従いまして医療用途へのご使用については適性や安全性の十分な評価、医療専門家の見解や法的規制に基づきご判断頂く必要があります。